

3 総合交通

～人と公共交通に快適なまち

<基本計画の目標>

総合的な交通体系の整備をめざします。

- 1) 自然に囲まれた歴史的遺産を後世に継承し、生活道路への通過車両の進入を抑え、安全で快適な市民生活を確保するため、市民、商業者、交通事業者と協働で交通需要管理施策を推進し、地域に根ざした交通体系をめざします。
- 2) 大船、深沢など拠点整備が進められている地区については、計画的な駐車場の配置等、自動車交通に対応できる施設を整備するとともに、広域幹線道路へアクセスしやすい交通体系をめざします。

<目標指標>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H18	H19	H20	H21	H22年度 目標値	H27年度 目標値
パーク・アンド・ライド利用台数(+)	七里ガ浜、由比ガ浜駐車場等における年間利用台数の合計	3,550 台	8,668 台	10,513 台	11,939 台	13,078 台	8,000 台	12,000 台
交通量の改善度(-)	自動車交通によって日常生活の安全がおびやかされていると感じる市民の割合	67.8 %	69.7 %	70.3 %	69.3 %	66.5 %	58 %	48 %
市民満足度	サブタイトルにあるまちの実現状況について、市民が実感している割合	49.2 %	50.5 %	48.4 %	52.4 %	49.0 %	69 %	79 %

<これまでの取組の評価～進捗と課題>

評価：◎80%以上の成果、○50%以上の成果、△30%以上の成果、×30%以下の成果

・都市整備部

<昨年度からの課題>

- ・交通需要管理施策の一つとして実施しているパークアンドライド等の利便性の向上を検討し、今小路通りの歩行居住環境の改善を図る整備計画については、専門部会と協議検討を行う。また、交通不便地域の解消を図って行く。

<進捗>

- ・渋滞解消策の一つとして実施しているパークアンドライドの利用は年々増加傾向にある。利用を促進を図るための利用案内看板等の整備等に努めた。今小路通りの整備計画の策定のため交通社会実験を実施した。交通不便地域解消を図るため、地域と協議し、解決事例等を交え協議を行った。

<課題>

- ・パークアンドライドは、更なる利用促進を図る。今小路通りの歩行居住環境の改善を図る整備計画を策定する。交通不便地域の解消に向けた地域との協議の継続、地域の活動を支援する。

担当部の評価



<今後の展開(取組方針)>

・都市整備部

- ・パークアンドライドは、利用促進のための利便性の向上を図る。今小路通りの整備計画の策定に努めると共に、専門部会から提案のあった歩きやすい側溝への改修等の施設改修や安全対策に取り組んでいく。交通不便地域の解消に向け地域に協力し、地域との協議を継続すると共に、地域の活動を支援します。

鎌倉市民評価委員会の評価

～評価委員は、この分野の取組について次のように評価しています。



評価できるところ

- ・渋滞解消策として実施しているパーク＆ライド・鎌倉フリー環境手形の利用者が増加していることは良い傾向である。
- ・ミニバス導入が困難な大町地区で乗合タクシー導入に向けた実証実験など様々な検討を行うことは良いことである。また、交通不便対策も高齢化が進む鎌倉市では必要不可欠の取り組みで評価できるであろう。
- ・期間限定ではあるが、今小路通りで交通規制をする社会実験を行った。試してみたら地元住民と協議し方針を決めるという姿勢は評価できる。
- ・今小路通りの側溝が改修され、歩き易くなった。



課題・提言

- ・総合交通に関する市民満足度は約50%であり、安全が脅かされていると感じる割合が約70%近くあり、道路整備の市民満足度は約15%を切る低率である。
- ・パーク＆ライドは利用台数が増加しているものの、体感的には週末の渋滞が緩和しているとは感じない。期間限定で市内への車の入場規制をするとともに、市民にも公共交通機関の利用を促す社会実験を試みたい。契約駐車場はもう少し郊外の駐車場の契約も増やし、市街地への通行の軽減を図れないものか？
- ・レンタサイクルを利用している観光客を良く見かけるようになった。自転車のルートマップを作るなどして自転車を利用するメリットを提供したい。自転車の安全面での注意も促したい。
- ・交通不便地域にミニバスの導入や平日の本数増加を取り入れて欲しい。高齢化から車を手放した方達の交通手段が少ない。歩いて行ける範囲に買い物する店がないのでバスが重要である。